

### 1. 野党サム・リャンシー党首、帰国

9/13午後2時過ぎに、野党・救国党のサム・リャンシー党首が、プノンペン国際空港に到着した。今回の帰国は通例とは大きく異なり、メディアへの帰国情報提供は行われず、また空港での少数の取材記者へのコメントも発しない、異例のものだった。また党首の帰国と連動する形で、夕方から「民主の広場」でデモ集会が開かれた。動員数は約300名で、市警察なども出動したが、騒動にはならなかった。 ※9/14、私が「民主の広場」に立ち寄ったときは平静であった。 →



### 2. カンボジアの労使仲裁経験、ミャンマーに

カンボジア仲裁評議会は、ミャンマー政府と国際労働機関(ILO)が共同で開くワークショップに参加し、労使紛争の仲裁分野での経験を共有する計画だ。ミャンマーとカンボジアは、いずれも労働集約的な繊維産業が盛んだ。ワークショップはミャンマーが進める労働紛争解決制度の構築作業を支援することを目的として、首都ネピドーとヤンゴンで開かれる。カンボジアのイト・サムヘン労相は「カンボジア仲裁評議会のシステムは他国のモデルとなり得る」と表明。同評議会のメン・ニメット専務理事代行は「成功には評議会の独立性が重要で、政治的な偏りがあるべきではない」と指摘した。同評議会は2003年に設立され、これまでに2,300件の仲裁申請を受理し、紛争の解決率は73%に達している。

### 3. カンボジア、最低賃金の調整難航も＝ジェトロ前プノンペン事務所長

9/18、日本貿易振興機構(ジェトロ)は、都内でカンボジア投資セミナーを開いた。講演したジェトロの道法清隆前プノンペン事務所長は、今年1月に月額100ドルから同128ドルに引き上げられるなど毎年急上昇が続き進出日系企業も懸念している最低賃金について、「カンボジア政府もそのことを認識し、タイ、ベトナムなど近隣諸国の実態を見ながら、外資誘致で競争力を高めようとしている」と指摘した上で、同政府は現地の日本商工会の意見も聞きながら決めていく意向だと述べた。ただ、道法氏は「(最低賃金が)低過ぎると国民の不満も出る」とも述べ、調整が難航する可能性も示唆した。また同氏は、その他の投資環境上の課題の一つとして「法律・規則の不透明な運用」を挙げ、「細かい規定がないため、役所の担当者の裁量で解釈が違ってくるところがネック」だと指摘。今年3月の産業政策策定を受け、投資法など各種法律がどう改正されていくかが注目点だと述べた。一方、物流面では、日本の政府開発援助(ODA)で建設されたメコン川に架かる「つばさ橋」が4月に完成し、「南部経済回廊」がつながったことを受け、タイの日系製造業が生産分散を目的にカンボジアに進出する動きも出ていると紹介した。

### 4. 縫製労働者、通勤途中のトラック衝突事故で12人が怪我

8/25、Takeo 州 Samrong 地区の警察官によれば、12人の縫製業労働者がトラック事故により負傷した。トラックはTakeoのBati地区にある工場に向かって労働者を乗せて運んでいた途中に反対側のレーンに飛び出し、その際に別の輸送トラックと激突したようだ。Samrong地区の警察官 Moeung Sarun 氏は、レーンを飛び出したトラック運転手の Tuy Bun (36歳)を拘留し、今後は裁判所に事件を任せる予定だと話した。Cambodian Apparel Workers Democratic Unionの組合員である On Phally さんは、事故の詳しい様子はまだ詳細にはわからないと話した。5月、Svay Rieng 州でも、労働者運搬トラックが事故を起こして18人の死人と数十人のけが人を出している。

### 5. 火事により縫製工場と銀行が被害



8/25の夕方プノンペンでは、2箇所で火災が発生した。ひとつはSen Sokの縫製工場で全焼。もうひとつはDaun Penhにある銀行施設で発生したが、早い段階で無事に消火された。警察は昨日、Sen Sokの火事についてはいまだに原因がわからない、と話した。プノンペン警察で火災事故を担当している Neth Vantha 氏は、「火事にあつた Xing High Feng 縫製工場は、70～80%の製品や備品を燃やしてしまいました。死人やけが人は出ていないようです。工場は台湾国籍のオーナーが所有しているもので、今後の調査を予定しているようです」と話している。2件目の火災は、Daun Penh 地区、オールドマーケット

近くにある Union Commercial Bank において発生した。火は見えなかったが、ビルの2階の窓から黒煙が立ち上って

いたため、消防隊が窓を破って入って放水した。およそ 10 台の消防車が現場に急行した。こちらの火災の原因は漏電の可能性が高いという。火事による被害額の予想はまだ出ておらず、また、銀行からのコメントもまだ出ていない。

## 6. 中国系工場の労働組合員、別室に監禁される

中国国籍のオーナーが所有する Svay Rieng 州 Bavet の窓製造工場において、8 人の組合代表者が、警備員に毎日のように別室に連れて行かれ不当に拘留されたと訴えている。Collective Union of Movement of Workers (CUMW) 代表の Choeun Sinoeun 氏は、「警備員たちは、妊婦を含むこの 8 名がストライキを統率したとして、毎日鍵をかけて別室に閉じ込めていたようです」、と話した。閉じ込められた 8 人は仕事を与えられず、勤務時間が終わったら、その部屋から直接家に返されたという。「自由を完全に奪われています」と Choeun Sinoeun 氏は非難する。この Beautiful Windows 工場では、労働条件の向上を求めて 400 人ほどがストライキを行っていたが、仲裁審議会に仲介を頼み、その後仕事に復帰していた。2 週間のストライキの間、労働者たちは工場に投石などを行ない、およそ 5 万ドルの被害額が出た。CUMW の代表 Pav Sina 氏によると、閉じ込められた 8 人が、労働者たちに投石をけしかけたものとして、警備員に閉じ込められたという。8 人は、これについて否定している。Svay Rieng 州の労務署で務める Has Bunthy 氏は、監禁は違法ではなかった、と話す。「まずいざこざを解決しなくてはならなかったもので、その期間中、別室にいらただけです」、と話した。工場の統括マネージャーは監禁があった期間中、Svay Rieng を離れており、何も知らなかったと話す。

## 7. 新たな運輸系労働団体が設立

運輸業界で働く労働者たちが新たに組合を結成したことが、8/23 に Cambodia Labour Confederation によって発表された。CLC 代表の Ath Thorn 新たな組合の名前は、Cambodian Transport Workers Federation (CTWF) で、運輸系の労働組合 7 箇所が統合したもので、組合員は合計 2000 人ほどになるという。プノンペン、シェムリアップ、シハヌークビルの各空港で働く労働者、そしてソリヤやキャピトルツアーなど、バスの運送会社で働く労働者が登録していた、7 つの労働組合が合体した。Thorn 氏は、「この動きは、縫製業以外の、特に建設や運送、農業といった、現在、労務法に違反しがちな他分野でも、積極的に組合を設立してほしいという目的に基づいています。組合化することによって労働基準を上げられるよう協力することができます。』と話した。

Thorn 氏は、「組合が互いに結託することによって、もっと影響力を持つことができます。最低賃金も導入するべきです」、と話す。また、Community Legal Education Center の labour program に携わる Moeun Tola 氏は、「運輸系で働くドライバーやアテンダントなどの職は、労働時間や賃金について、ほとんど無法な状態です。縫製系ですと、労働者たちは組合をつくり製品を多く輸出しているヨーロッパのバイヤーの注意を引くことができ、それによって労働条件も上げやすくなります。しかし運輸業では、そういったオプションがありません」と話した。しかし、運輸業界で組合を増やすのは簡単な取り組みではない。1 年以上前に、組合をつくらうとしたソリヤ、キャピトルツアーのドライバー達は、会社によって解雇され、それに対して 1 年以上もストライキをしている労働者もいる。キャピトルツアーのドライバー Van Rong さんも、彼を含め 8 人のメンバーで組合を組織し活動を始めたものの、1 ヶ月後には全員が会社から解雇されたという。「この新たな大規模な組織化については知りませんでした。ですが、わたしのようなドライバーたちにとって良い影響があると思います」と彼は話した。

## 8. “革命”を提起した学生が逮捕



反政府活動家が、ソーシャルメディアへの『色の革命に参加せよ』、といった呼びかけを行う投稿によって刑務所に入れられた。Kong Raiya さん 25 歳は、8/25、プノンペンの Khemarak 大学で試験を受ける予定だったが、大学に入る前に拘束されて、尋問のため市の裁判所まで連れて行かれた。Raiya さんが、「Soriya Koko」というニックネームで行っている自分のフェイスブックに書き込んだ投稿はこのようなものだ。『誰か私とともに色の革命を行う勇気のある人はいないか。カンボジアを動かしている安っぽい政権を断つために、私は革命を行います。例え牢屋に入れられようが、殺されようが、それが私の任務だ』と書き込んだ。彼は裁判所で尋問を受けたあと、8/28 に Prey Say 刑務所に入れられ、更なる裁判を待つこととなった。

内務省の Teang Sarat 氏は、彼がどのような罪に当たるのか明らかにすることを拒んだ。「もし法律に関わることが知りたければ、裁判所に聞いてください」と、彼は話した。プノンペン市裁判所の調査官である leang Samnat 氏は、生徒の拘束の場に立ち会っていたが、コメントは控えている。人権団体 Licadho のシニア調査官 SamAth 氏は、「色の革命」を立ち上げることにについて特定の罪名がないと判明したが、政府は Cambodia's Criminal Code Article の 494 条と 495 条に当

てはまるという結論をだした。494 条は、『罪を犯すという内容の挑発』、495 条は『重罪を犯すという直接的な挑発』だ。「彼は有名人ではないし、人々を革命に駆り立てる能力也没有ありません。そして政府は絶対にそんなことをさせないでしょう。だから彼の投稿はただのアイデアであり罪にはなりません」、と Sam Ath 氏は話している。

また、Raiya さんの母親である Horn Sophat さんは、法的な手段がとられようとしていることを非難した。「息子は大学 1 年生で、革命をしようというのも本気ではありません。ただ社会の不法行為に対して疑問を持ち、個人の感情を述べただけです」、と話した。今回の逮捕が起こる 1 ヶ月ほど前に、フンセン首相が Kandal 州の Takhmao 市で演説を行い、「色の革命」に対する警告を促していた。「武装警官のみなさんは、政府に忠誠を尽くし、”色の革命”のいかなる活動も許してはいけません」と演説している。

※”色の革命”とは、アジアとかつてのソビエト連邦で 1980 年代以降に見られた活動で、弾圧的な政権を廃止し自由な民主主義を実現させるため、暴力を用いない手段で学生たちが組織化、革命活動を行うことを指す。その伝統は最近のチュニジアのジャスミン革命、ミャンマーのサフラン革命などに受け継がれている。

## 9. カンボジアの団体、ラオスのダム建設に反対

9/21、カンボジア河川連盟など複数の団体は、ラオス国会が同国南部チャンパサック県のメコン川でのドンサホンダム建設を承認したことを受け、計画中止を求める声明を出した。ドンサホンダムは水力発電を目的として、カンボジア国境から 1~2 キロのメコン川支流に建設されるもので、マレーシア企業のメガファーストが開発を進める。想定発電量は 240 メガワットとされる。メコン川流域 4 カ国で構成するメコン川委員会(MRC)は今年 6 月、ドンサホンダム建設計画で合意に至らなかったが、ラオス国会は計画承認を強行した。声明は計画中止に加え、各国の同意が得られるまで売電契約や施工契約を締結しないよう求めている。世界自然保護基金(WWF)は最近、ドンサホンダムが建設されれば、メコン川下流での食料安全保障やイルカの保護、カンボジアの水産業に影響が出るとして抗議していた。

## 10. 42 歳の内縁の妻を包丁で殺害

Banteay Meanchey の Mongkol Borei 地区では、嫉妬に駆られて内縁の妻を切りつけ殺した男性が、警察が到着する前に自殺を図った。警察は被害者の兄弟が呼んでいた。「男は、亡くなった妻の死体の上に腰をおろし、手にもった大包丁で自分の喉をきりました」、と Sambuor 村の警察官 San Bunthorn 氏は話す。男性は Uy Heuth さん 45 歳、妻の Chhem Ung さん 42 歳を殺した罪で拘留されている。男は妻と 5 年間一緒に暮らしているが、正式な婚姻手続きはしていなかった。Bunthorn 氏は「Heuth は、その時酔っ払っており、Ung さんが浮気をしているといって責めた。しかし Ung さんは否定し言い返し、別れようと言ったそうです。口喧嘩になり、Heuth 氏が大包丁を手にとったので、Ung さんは逃げようとした。しかし Heuth さんは彼女を床に押し付けて、喉や胸など少なくとも 19 回は切りつけて殺した。Ung さんの母親がそれを止めようとしたが、彼女もまた肘を切りつけられました」、と話した。Heuth 被告は今後裁判にかけられるという。

## 11. PLAN-B、ウェブ制作の子会社設立

9/16、デジタルマーケティングの PLAN-B (大阪市)は、カンボジアの首都プノンペンに設立した子会社の営業を同日から開始したと発表した。初の海外オフショア拠点として、ウェブサイトの制作を手掛ける。

## 12. タイ大手 SCCC、カンボジアにセメント工場＝年内に合弁会社

9/18、タイ第 2 位のセメント会社、サイアム・シティー・セメント(SCCC)は、カンボジアにセメント工場を建設するため、現地の販売代理店 ティップ・モン・グループと合弁会社を設立すると発表した。今年 12 月に発足し、工場着工から 2 年後の稼働を目指す。SCCC によると、カンボジアの合弁会社は資本金 1 億 5000 万ドルで、SCCC が 40%、ティップ・モンが 60% 出資する。日産 500 トンのセメント工場を約 1 億 5000 万ドルで建設する。カンボジアは経済発展に伴いセメント需要が年率 10% で拡大しており、SCCC は数年前から現地生産を検討してきた。同社はカンボジアでのセメント生産を将来、年間 300 万トンに拡大する方針。カンボジアのほか、ミャンマーでもセメント生産を検討している。

以上